

National
Parks
of Japan



十和田八幡平国立公園

鳶野鳥の森 自然散策路 MAP

コースを一周する間に、火山活動によって生まれた沼、湿潤な環境を好むトチノキの巨木、この森の主役であるブナの純林など、多様な森林景観を観察することができます。

至 青森市



月沼から流れ出した沢の水を窪地に引き込んで造られた人工の池。



季節や雨の量によって、大きく伸びたり小さく縮んだりを繰り返すユニークな沼です。



切り出した木材の貯木場として利用するため、川をせき止めて造った沼と伝えられています。



流れ込む水路はなく、湧水のみを源としています。森に囲まれた小さな沼です。

6つの中で最も大きな沼です。沼をぐるりと囲む美しいブナ林と、その向こうに顔をのぞかせている赤倉岳を望む、この森いちばんのビューポイントです。



歩き方のヒント /

地殻変動と鳶の地形

鳶沼の左後方にそびえる赤倉岳は、南八甲田山系を構成する山のひとつで、80万年前から30万年前までの火山活動で生まれました。この山体は不安定な状況にあり、数万年前、山の東側が岩層なだれを起こしました。斜面を高速で流れ下り、山麓の地形をすっかり変えてしまいました。

菅沼と長沼の間では大きな溶岩や火砕岩を見ることができますが、これらはその時の名残です。

水のめぐみ

鳶の森は「水の生まれる森」でもあります。地図にも記されていないような小さな沢筋がいたる所で見られ、まるで森全体に水路が張り巡らされているよう。厚い落葉の下はいつもしっとりとして、どんなに晴れの日が続いても乾くことはありません。

散策時には、ときどき立ち止まって静かに耳をすませてみましょう。森のそこかしこを流れる、小さなせせらぎの音が聞こえてくることでしょう。

小さな世界

散策中は森や沼の美しさ、梢を飛び交う鳥たちの可愛らしさに目を奪われることでしょう。ですが、もっと小さな世界に注目すると、そこには驚くような発見が待っています。

木の幹や土手、橋にも岩にも、目を凝らせばキノコやコケ(蘚苔類)を見つけることができます。ルーペで見るとそれらの繊細な美しさは息を呑むほど。ブナの幹も近づいてよく見るとあの独特のまだら模様が、実は地衣類と呼ばれる菌類と藻類の共生体であることに気がつくことでしょう。

凡例

- 沼めぐりの小路
- 道迷い注意
- トイレ
- 駐車場
- バス停
- 鳶野鳥の森林休憩所

一周
90分

「沼めぐりの小路」は一周およそ3キロの散策コースです。のんびり歩いて90分が目安。鳶の雰囲気をもっと気軽に楽しむなら、約500メートル先の鳶沼を訪れて折り返すとよいでしょう。



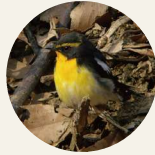
会えるかな？

森に生きる 野生動物



鶯の森は、木の上から地上まで、さまざまな野生動物が共に暮らす楽園です。森を飛び回る鳥を観察するなら、鳴き声に注意して、その動きを見逃さないようにしましょう。散策中に何者かの視線を感じたら、それは

カモシカかもしれません。カモシカは人を認識してもすぐには逃げず、じっと見つめる習性があります。もちろんそんな穏やかな動物だけでなく、この地域にはツキノワグマも生息しているので油断は禁物です。



キビタキ

春になると東南アジアからやってくる渡り鳥で、木の裂け目などに巣を作ります。頭が黒く、喉から胸にかけてハツとするほど鮮やかな黄色で彩られているのがオス。枝の先から飛び立って空中で虫を獲り、また元の枝に戻る習性がある比較的天見つけやすい鳥です。



カケス

夏の間はとても静かに暮らしていますが、春と秋にはさかんに発声するため存在感の増すカラスの仲間。ふだんは濁った短い声で騒がしく鳴いていますが、他の鳥の歌マネが得意というユニークな一面を持ちます。晩秋には雪の少ない地方へと移動していきます。



ツキヨタケ

暗い夜に見ると、裏のひだの部分がほのかな緑色に発光するちょっと変わったキノコです。そんな幻想的な姿からは意外なことに、おいしくて人気のあるヒラタケに似ているせいで、食中毒の事例がいちばん多いキノコとしても知られています。くれぐれもご注意ください。



キクザキイチゲ

早春、広葉樹が葉を広げてしまう前に、日の光が差す森の中で菊に似た白や紫の花を一輪つけます。湿った場所を好み、大きいもので高さ30センチほどになる多年草です。木が葉を繁らせる頃には地上部分は枯れてしまい、翌春にまた地下茎から地上に姿を現し花を咲かせます。

「チヨチヨビー」と聞こえる特徴的な声で囁きながら、葉の裏に付いている昆虫を探しているムシクイと呼ばれる仲間のひとつ。目立つ場所に出てくることの少ない鳥ですが、声を頼りに葉陰を注意して観察してみましょう。春から初夏に南方から渡ってきます。

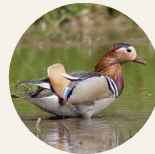


センダイムシクイ



カモシカ

国の特別天然記念物に指定されているカモシカ。人を怖がらず、山で出くわしても静かにこちらを見つめてくる様はなんだか神秘的。森の中で視線を感じたら、どこかにカモシカが潜んでいるかもしれません。



オンドリ

森や林に囲まれた湖沼を好むオンドリにとって、鶯の沼はまさに理想的な住みか。観察するなら鶯沼、長沼、菅沼、瓢箪沼が狙い目です。シックな色合いのメスと、カラフルでお洒落なオスはまるで別な種類の鳥のよう。鶯野鳥の森では、春から秋にかけてみられ、冬が来る前に渡去します。



エゾハルゼミ

初夏の山から蝉の鳴き声が聞こえて不思議に思ったことはありませんか？エゾハルゼミは、寒冷地のブナ林などで5月から6月にかけて姿を見せる小さなセミ。雨が降る直前に鳴き止む習性があるので、散策中に泣き声が止んだら雨に注意です。



モリアオガエル

普段は森の中で暮らしていますが、繁殖期になると木に登り、沼などの水の上に張り出した枝に泡に包まれた卵を産みます。孵化したオタマジャクシは下の沼に落ちて、再び大人になって森に帰るまでそこで成長します。6つある沼のうち、卵塊が最もたくさん見つかるのは瓢箪沼です。

見つめられるかな？

森の植物を 観察しよう



鶯の森を代表する2種類の木の見分け方を知っていますか？幹がすべすべして灰色なのがブナ、ゴツゴツした黒っぽい樹皮をまとっているのがトチノキです。鶯の名前の由来になったとされるツル植物はどうでしょう？ヤマブドウはツルが黒くて葉が

大きく、紫色のブドウの房がなります。一方サルナシは灰色のツルでキウイに似た小さな実をつけます。ヤマブドウの樹皮は生長過程で剥けるように垂れ下がり、サルナシの樹皮はブロック状に浮き上がります。

季節を知らせる小さな生きもの



フィールドマナーを守りましょう



動物に餌を与えない



動植物や石を持ち帰らない



木道や歩道を歩こう



キャンプやたき火は決められた場所で



ゴミは捨てずに持ち帰ろう